

未来への遺産

岐阜県
清流が育む文化
日本三大清流 長良川

県土の八割を森林が占める「山の国」岐阜県は、太平洋と日本海の両方に流れ込む八つの河川を有する「清流の国」でもあります。

このうち、日本三大清流の一つに数えられる長良川は、環境省の「名水百選」や河川では唯一の「日本の水浴場八十八選」に選ばれるほど水質が良く、日本一の味「郡上鮎」を始め、流域に大きな恵みをもたらすとともに、多様な文化を育んできました。

『汚さない、無駄にしない』水との共生文化

長良川上流部の「水と踊りの城下町」郡上八幡では、四百年以上も前に考え出された「水舟」



「水舟」のある風景

が、今も生活の中で使われていま。この水舟は、二層から三層の階段状になった桶に清水を引き込むもので、上の槽から順に、飲み水、野菜洗い、食器洗いに使います。そこで出た

食べ物の残りはそのまま下の池に流れて鯉の餌となり、水は自然に浄化されて再び川に流れこむ仕組みとなっています。

「水舟」には、「水を汚さない、無駄にしない」という先人の知恵と工夫が今も生きています。

千三百年の歴史を誇る古代漁法「鵜飼」

松尾芭蕉が「おもうしろうてやがてかなしき鵜舟かな」と詠んだ鵜飼もまた、川が育んだ文化です。長良川中流域の岐阜市や関市では、千三百年前より鵜飼漁が行われ、今も、日本で唯一、宮内庁式部職の鵜匠による漁を間近で見ることが出来ます。近年、学術調査によりこの伝統的漁法の価値が改めて確認され、平成二十年には県重要無形民俗文化財に指定されました。

水との闘いから生まれた輪中文化

一方、長良川の下流域、木曾川、揖斐川という我が国有数の河川が集まる岐阜県南部は、昔から洪水の多発地帯でした。人々は水との闘いに多くの犠牲を払いながら、堤防で居住地を囲んだ「輪中」という共同体や、洪水に備えて高台に建築した建物「水屋」など、独自の治水文



長良川の鵜飼

化を築き上げました。また、宝暦年間には、薩摩義士の尊い犠牲の下、木曾三川の改修が行われました。先人への感謝と助け合いの精神は、今もこの地に連綿と受け継がれています。

清流の国づくり

岐阜県では、水と共生して育んできた自然環境や文化を守り、次の世代に伝える取組みを進めています。

本年六月には、初の河川開催となる「第三十回全国豊かな海づくり大会」を長良川で開催します。森・川・海が一体となった環境保全の大切さを、上下流の県とも連携を図り、次代を担う子供たちと一緒に全国へ発信していきます。

お問い合わせ

岐阜県広報課

TEL 〇五八―二七二―一一一



薩摩義士による宝暦治水などの尊い犠牲のもとに整備された木曾三川

第30回全国豊かな海づくり大会
～ぎふ長良川大会～
大会キャラクター「ヤマリン」